



6 林 業

項 目	作 業 内 容
<p>(1) 原木の 選定</p> <p>(2) 原木の 伐採</p>	<p>(今月の作業のポイント) シイタケ栽培について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たなホダ木を作るための作業 <ul style="list-style-type: none"> ○原木の選定 ○原木の伐採 ・これからシイタケを発生させるための作業 <ul style="list-style-type: none"> ○ホダ場の選定 ○ホダ起こし <p><u>週間天気予報を確認して原木を伐採等する。</u></p> <p>シイタケ原木の最適樹種はクヌギ、コナラであるが、カシ類・シイ類・シデ類・アベマキも適樹種である。 また、原木に適する樹齢は、クヌギとコナラが10～25年生、カシ類・シイ類・シデ類が30年生以上である。</p> <p>シイタケ原木の伐採適期は、クヌギでは3分黄葉期で、晴天が数日続いている時が良い。この時期は、樹液の流れが少なくなり樹皮が剥げにくくなる。</p> <p>一方、まだ葉からの蒸散が行われているため、伐採後の「葉枯らし」により、葉の蒸散作用で辺材部の水分が抜けて材組織の枯死が進み、シイタケ菌糸がまん延するのに適した原木状態となる(次ページ表、写真1)。</p> <p>この「葉枯らし」の期間は1～2か月ぐらいが適当であるが、伐採地の地形や環境、樹種、原木の大きさ、気象条件などを考慮して決める。</p> <p>伐採時の注意事項は次のとおりである。</p> <p>ア 安全作業を心がけ、ロープ等で伐採方向を定める(写真1)。 イ 伐倒方向は、斜面に向かって上方向か水平方向とする。 ウ 原木の伐り口を切り株や石などの上に乗せ、伐り口をできるだけ地面に着けない(写真2)。 エ すでに害菌やせん孔虫などの侵入を受けている元玉などの被害部は、伐採時に取り除く。</p>

項 目	作 業 内 容																									
<p>(3) ホダ場の選定</p>	<p>表 原木の伐採適期</p> <table border="1" data-bbox="454 324 1385 631"> <thead> <tr> <th data-bbox="454 324 842 421">樹 種 伐採時期</th> <th data-bbox="842 324 970 421">クヌギ</th> <th data-bbox="970 324 1098 421">コナラ</th> <th data-bbox="1098 324 1241 421">カシ類 シイ類</th> <th data-bbox="1241 324 1385 421">シデ類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="454 421 842 481">黄葉初期～3分黄葉</td> <td data-bbox="842 421 970 481">◎</td> <td data-bbox="970 421 1098 481">◎</td> <td data-bbox="1098 421 1241 481"></td> <td data-bbox="1241 421 1385 481">◎</td> </tr> <tr> <td data-bbox="454 481 842 533">4分黄葉～7分黄葉</td> <td data-bbox="842 481 970 533">○</td> <td data-bbox="970 481 1098 533">◎</td> <td data-bbox="1098 481 1241 533"></td> <td data-bbox="1241 481 1385 533"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="454 533 842 584">冬季（1月～2月上旬）</td> <td data-bbox="842 533 970 584"></td> <td data-bbox="970 533 1098 584">○</td> <td data-bbox="1098 533 1241 584">◎</td> <td data-bbox="1241 533 1385 584"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="454 584 842 631">春季（2月中～3月上旬）</td> <td data-bbox="842 584 970 631"></td> <td data-bbox="970 584 1098 631">○</td> <td data-bbox="1098 584 1241 631"></td> <td data-bbox="1241 584 1385 631">○</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="475 649 1276 824"> ※この表は標準である。 場所、その年の気象条件などで、若干差が生じることがある。 ◎・・・最適期 ○・・・適期 ※老齢木は黄葉初期に伐採する。 </p>	樹 種 伐採時期	クヌギ	コナラ	カシ類 シイ類	シデ類	黄葉初期～3分黄葉	◎	◎		◎	4分黄葉～7分黄葉	○	◎			冬季（1月～2月上旬）		○	◎		春季（2月中～3月上旬）		○		○
	樹 種 伐採時期	クヌギ	コナラ	カシ類 シイ類	シデ類																					
	黄葉初期～3分黄葉	◎	◎		◎																					
	4分黄葉～7分黄葉	○	◎																							
	冬季（1月～2月上旬）		○	◎																						
	春季（2月中～3月上旬）		○		○																					
																										
<p data-bbox="686 1272 1133 1303">写真1 原木の伐採（左：3分黄葉）</p> 																										
<p data-bbox="813 1706 1021 1738">写真2 葉枯らし</p> <p data-bbox="446 1803 1388 1982"> ホダ場の温度条件と使用品種が合っていないと、品種の特性が発揮されにくい。特に低温系品種はこの傾向が強いので、なるべく南～東南向きの、日当たりが良く、昼夜の温度較差が大きい場所をホダ場に選定する。 </p>																										

項 目	作 業 内 容
<p>(4) ホダ起こし</p>	<p>シイタケ菌糸が十分にまん延したホダ木を、シイタケの発生環境に適した林内のホダ場に移し、シイタケが変形せずに成長し、採取しやすいようにホダ木を組み変えることを「ホダ起こし」という。最低気温が数日間にわたり、使用品種の芽切り温度以下になってからホダ起こしを実施する。</p> <p>ホダ起こし時の注意事項は次のとおりである。</p> <p>ア シイタケ菌糸がまん延したホダ木は、原木に比べて樹皮が傷付きやすくなっている。このため、作業時に樹皮部が損傷すると、損傷部やその周辺部が乾燥してシイタケ菌が衰弱・死滅し、その部分から害菌のトリコデルマなどが侵入し大きな被害を受けることがある。</p> <p>イ 作業中、ホダ木に直射日光が当たると高温障害となり、シイタケ菌糸が衰弱して害菌の侵入を受けやすくなる。特に、裸地伏せ地での作業は笠木を一度に取り除かないなど、直射日光が当たらないよう気を付ける。</p> <p>ウ ホダ木をホダ場まで運び、一箇所に積んだまましばらく静置する場合が多い。その間は、直射日光が当たらないようホダ木を保護する対策を講じる。</p> <p>エ ホダ木の組み方は、ヨロイ、ムカデ、合掌等の方法があるが、一般には合掌がシイタケを採取しやすい。</p> <p>オ ホダ木は、品種別、太さ別、樹種別に組んでおくと、発生操作、採取・選別などがしやすくなる。</p>

(作成 林業研究センター)